

議員定数報酬等調査 特別委員会会議録

令和7年12月19日(金)本会議終了後
小美玉市役所 3階 議会委員会室

小美玉市議会

第1回 小美玉市議会議員定数報酬等調査特別委員会

令和7年12月19日（金）
本会議終了後
議会委員会室

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 協 議

①今後のスケジュール（案）について

②定数の調査方法について

③報酬の調査方法について

④その他

4. 閉 会

出席委員（18名）

1番	鬼田岳哉君	2番	宮内勇二君
3番	戸田大我君	4番	内田和彦君
5番	山崎晴生君	6番	真家功君
7番	香取憲一君	8番	長津智之君
9番	島田清一郎君	10番	鈴木俊一君（副委員長）
11番	村田春樹君	12番	石井旭君（議長）
13番	谷仲和雄君（副議長）	14番	長島幸男君
15番	岩本好夫君（委員長）	16番	福島ヤヨヒ君
17番	大槻良明君	18番	田村昌男君
20番	荒川一秀君		

欠席委員（1名）

19番 市村文男君



議会事務局職員出席者

局長 佐川光
書記 井坂義久

午後 1時00分 開会

○副委員長（鈴木俊一君） ただいまより、議員定数報酬等調査特別委員会を開会いたします。
まずはじめに、委員長挨拶、岩本委員長お願いいたします。



◎開議の宣告

○委員長（岩本好夫君） お疲れさまでございます。

本会議に引き続き、特別委員会ご出席ありがとうございます。

今日は、第1回目の委員会となります。いちからの定数と報酬を決める非常に大事な特別委員会でございますので、皆さん一人一人の意見を十分に聞きながら、委員長として進めてまいりたいと思います。皆さまにもご協力よろしくお願ひします。

以上です。

○副委員長（島田清一郎君） ありがとうございます。

それでは、協議に入ります。

協議の進行は、岩本委員長よろしくお願ひいたします。



1. 今後のスケジュール（案）について

○委員長（岩本好夫君） それでは、ただいまの出席委員は18名であります。

定足数に達しておりますので、本日の会議を開きます。

資料につきましては、スマートディスカッションに保存されておりますので、準備はよろしいでしょうか。

それでは、今後のスケジュール（案）について事務局で案を作成しましたので、事務局のほうから説明させます。よろしくお願ひします。

井坂議会事務局次長補佐。

○議会事務局次長補佐（井坂義久君） 事務局の井坂でございます。よろしくおねがひします。
着座にて失礼させていただきます。

その前に、現在タブレットのほうにお示ししております資料は、今までの定数報酬に関わる経過でございます。

最終的に、定数は20名のみで選挙を実施しました。報酬については、結論を焦る必要はなく、じっくり議論し、その時代の社会情勢にて検討してもらうことが大事ということで現状

維持となりました。

それでは、今後のスケジュール（案）についてご説明いたします。

簡条書きした資料もありますが、今回は時系列にした資料で説明させていただきます。

今回が第1回目の会議となり、今後各定例会ごとに委員会を約5回、令和8年の12月定例会まで遅くとも進めていただき、最終日の全員協議会までに方向性について報告をお願いいたします。

令和9年3月定例会において、定数は初日の全員協議会で委員長報告をしていただき、本会議にて委員長より定数条例改正の発議をお願いいたします。

報酬も遅くとも最終日の全員協議会までに市長へ提出する要望書案を確認していただきます。協議後、本会議にて同じく委員長報告をしていただきます。令和9年4月頃、最終確認をした報酬額改定の要望書を市長へ提出いたします。市長の諮問機関である人事課が担当ではございますが、特別職報酬等審議会に委ね、適正な議員報酬額の必要性及び支給金額について審議し、適正な議員報酬月額を提示していただけるよう要望いたします。

令和10年3月の議案にて条例の改正が執行部から提出される間、審議会委員の選出や、会議、令和10年当初予算資料提出、査定、予算特別委員会にて審議等が予想され、令和10年度から施行される予定になります。

このスケジュール案では、次回改選時、令和9年11月実施予定の市議会議員選挙立候補者においては、定数については、選挙の約8か月前にお示しできる形になります。報酬についても、同様に委員長報告の内容の中に記入してあり、その1か月後に市長へ要望書を提出し、その旨を広報紙やホームページに掲載しますので、おおよそ7か月前にお示しできる形になります。

説明は以上となりますが、あくまでも事務局（案）となりますので、よろしく申し上げます。

○委員長（岩本好夫君） 事務局より説明をいただきました。

事務局（案）となっておりますが、わたし委員長と事務局のほうで、こういう案ではどうかということで、つくったものでございます。

このスケジュールについて、委員会の皆さまのご意見等ありましたらお伺いいたします。

荒川委員。

○20番（荒川一秀君） 最初に申し訳ないですが、せっかくスケジュール委員長がつくってくれて有難いんだけど、もう少し前倒しにしてやらないと、もっと早く

ね。1年以内ぐらいにもう定数は決めておかないと、また選挙が近くなってどうのこうのとなるから、できるだけ前倒ししてもらったほうがいいということ。それと報酬と別に報酬は最後に後付けになってくると思うんだけど、一緒にやっているわけだから、そこでもってある程度は要望を市長に出すしかないから報酬審議会開催のね。そういうのも平行してやっていって前倒しして。選挙後の定数はそうなると思いますので、だけど選挙は数でやると思うので、だけど報酬も最後にあれして、今の物価高なりなんだりの状況をあれして、職員も報酬上がっている状況、それに付随する形で皆さんと協議して、少しでも前倒したほうがいいというのがわたしの考えです。

○委員長（岩本好夫君） ご意見いただきました。

これは、荒川委員の意見としてお伺いします。

これは、定数に関しても報酬に関しても、小美玉市議会議員の定数と報酬ですので、皆さん個人個人にかかわる大事な問題であり、改選後ということになったとしても、次期立候補する方々の左右する大事な問題であります。わたしとしては皆さんの一人一人の意見を聞いて取りまとめて、わたしが話しているのはスマートディスカッションに保存されている資料を、皆さんがお目通ししていただいたという点についてお話ししますね。

最後に、じゃどうしましょう定数も報酬もとなった場合には、全員一致であるのが一番いいんでしょうけど、無記名とは書いてありますが、記名していただいても結構ですから全会一致、理想は全会一致でこの定数がいいでしょう、この報酬がいいでしょうとなるのが一番なんですけど、なかなか難しいと思います。そうなることを期待してわたしは委員長を進めたいと思うんですが、ただ、これから今日は皆さんお一人お一人の定数と報酬に関する考えをお伺いして、まず、正副委員長と事務局でそれを取りまとめさせていただいて、次回の委員会からそれを反映させた委員会運営にしたいと思っております。

そうして運営していく中で、もし定数でも報酬でも早めに決まることができれば、そうすれば早めに終えることも有りだと思います。

1年後にしようとか、何ヶ月後にしようではなくて、最低でもここまでは定数と報酬を変えるのであれば、この時期にはお示ししなければならないでしょうというスケジュール案ですので、それを踏まえていただければとわたしは思っております。

す。

今、事務局の説明、わたしの説明を補足しましたが、ここに対してまたご意見等ある方はお伺いします。

長島委員。

○14番（長島幸男君） 今、定数と報酬ということでお話があったんですが、そのほかに費用弁償についてもこの委員会でご検討いただきたいなと思っているんですが、あとは先ほど定数のほうでそう長くならないで9年の末なのかな、選挙がね。ですから実質的には8年の12月あたりまでに結論を出して、前回も1年割ってしまったんですよね、結論が出たのが。ということになるとなかなか難しいということで、できれば改選の期間を最低1年ぐらいに決めていただきたいなとわたしは思っています。

○委員長（岩本好夫君） お伺いしました。

今、わたしが説明しましたように、それは決められれば決めたいと、決める時期もこれはスケジュール（案）なので、これから委員会としていろいろ調査研究していく中で、それが決まることになれば皆さんの同意があれば1年後でも、選挙の1年前でも、もっと前でも決めることが可能であればそれでいいとわたしは思います。いかがでしょうかね皆さん。

[「異議なし」]

○委員長（岩本好夫君） それでは、今言ったようなスケジュールで進めさせていただきます。

◇

2. 定数の調査方法について

○委員長（岩本好夫君） 次に、定数の調査方法について皆さんと協議したいと思いますが、調査方法というか、ここにスマートディスカッションに皆さんのお手元に、全国市議会議長会で発行しております調査結果を添付してあります。市町村別の結果になりますと、小美玉市は人口段階 A の5万人未満に属し、上から結城市、下妻市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、潮来市、常陸大宮市、稲敷市、かすみがうら市、行方市、桜川市、鉾田市、そして小美玉市の13市の中で、一番多い定数となっているのが分かります。

また、全国町村議会議長会政審幹事会小委員会の資料にはなりますが、議員定数

減少の長所と短所も添付してあります。こちらの資料を参考にし協議いたしますので、定数に関する意見を先に皆さんお聞かせください。期数の若い議員から一人一人ご発言をお願いします。

○1番（鬼田岳哉君） 鬼田の意見でございますが、定数だけでよろしいですか。

○委員長（岩本好夫君） はい。

○1番（鬼田岳哉君） 定数のほうは、わたしは減でよろしいかなと考えております。

○委員長（岩本好夫君） 差し支えなければ、その減でいいという理由もお願いします。

○1番（鬼田岳哉君） 減の理由といたしましては、議会という企業が今20名の方で担われていますが、20名でなくて18、16なり数字はぱっと出てこないんですが、人数を減らしても今の機能は維持できるのではないかと考えている次第です。

○委員長（岩本好夫君） ありがとうございます。

では、次。

○2番（宮内勇二君） わたくしも減らす方向でいいのかなと思ってまして、小美玉市においても人口減少や少子高齢化が進んでおりますので、あとは議会においてもスマートディスカッションで進められて電子化されていますので、議会の定数のスリム化をはかっていく必要性はあるのかなと考えております。

以上です。

○委員長（岩本好夫君） ありがとうございます。

では、次。

○3番（戸田大我君） わたくしも、定数は減と考えております。この資料にもあるように人口規模で考えても16.5人とかだったりします。今、4万少しですけども、今、減らすのも世の中の流れとしても平均が出ていることもありまして、それは市民にとってどんな説明ができるのかと考えたときに、減らすということが必要かなと考えています。

以上です。

○4番（内田和彦君） 内田です。この表で見える限りではAの5万人という中では小美玉市は20名ということで数は多いとは言いませんけど、数だけで見れば減なんですけど、数だけじゃなくて市町村によっていろいろ中身が違う面もあると思うので、

そのへんのところもしっかりと精査しながら、取り敢えずわたしの考えでは減でいいかなというふうに思います。

○5番（山崎晴生君） 自分も減としても定数のほうは減でというふうな意見です。小美玉市も確実に人口が増えるわけでもありませんし、今後人口は減っていくようなところで先ほどあったように、DX等進んで作業の効率とかそういったICTを活用して業務もかなりスリム化できるのかなというところは同感ですし、メリット、デメリット多くあると思いますので、この委員会のほうでしっかりと精査をしながら、議論を深めていければと思います。

以上です。

○6番（真家 功君） 真家です。わたしは県内の情報を見ても、人口から見て減がふさわしいんじゃないかと思います。

以上です。

○7番（香取憲一君） 香取でございます。わたくしも結論から言いますと減の方向性だと思っております。理由につきましては今4万8,000人ですけども、在留外国人の方を抜きましても4万6,000人ぐらいという人口的なものはそれではあれなんですけど、それぐらいになっちゃってるなという思いではあるんですが、市民の皆さんのいろいろな声も聞いて、それに対して議会としても改革を示すという形の側面という意味で減で立ち向かっていこうというふうな思いでおります。

以上です。

○8番（長津智之君） 長津です。わたしも流れ的には減のほうかなと思っております。

それと1つは定数ともう1つある報酬の部分も結論的に出た場合には住民に対する説明というか住民に出ますので、やっぱり自分たちが、誰も定数が下がるということは当然うしろに選挙が絡んでくると思いますので、そこで身を切る改革そういうものも含めて、また、そこに報酬上げとなった場合には定数も下げないで報酬だけ上がっていく、議員さんたち上がるんですかと住民感情もあるのかなと思まして、今の考えではわたしは減のほうでいいんじゃないかなと思っております。

以上です。

○9番（島田清一郎君） 島田です。わたしも減の方向でいいと思います。

人口規模がこれから少なくなるのが予想されます。それとわたしたちの努力と言

うんですかね、20人でやっていた仕事を18人でやるという誠意的なものを市民の皆さんに見せる必要があるかと思っております。

以上です。

○11番（村田春樹君） ここで皆さん減の流れでできているんですけども、わたくしとしては現状維持が妥当ではないかと考えております。

実際に、減らすことによって身を切るといふ、改革そういったことは確かに聞こえはいいかもしれませんが、20人いるからこそ様々な地域の市民の声をしっかりと今、聞き届けられているような状況なのかなというふうに考えています。

18名、16名、減っていくことによって、市民の声が届きにくくなる可能性もありますし、あとは若手であったり、女性であったり、民間企業に勤めている方が例えば議会に出るといふことが難しくなってくるような時代にもなってくるのかなと思いますので、いろんな多様性を日本でも多様性という話いろいろ出ていますけども、そういったことを考慮するのであれば現状維持で20名減らさずにいくほうがいろんな声を聞けるような議会であるのかなとわたくしは思っております。

以上です。

○14番（長島幸男君） 長島です。わたくしも減ということで考えております。

理由は皆さん今、お話したとおり、何人かの議員の方がお話したとおりであります。

それと、この市議会の表を見ていますと、同規模、同地帯地域あたりも減ということで審議されております。そういうことで減ということで、お願いしたいと思っております。

○16番（福島ヤヨヒ君） わたくしは、最低でも現状維持だと思います。

なぜならば、女性議員が益々生まれてこないのではないかな、クウォーター性とは言いませんけれども、女性が立候補して当選しやすいには、減らしたら益々女性が出られません。前回の選挙でも女性がせつかく3名出たんですけども当選できませんでした。そういう時代が益々くると女性の意見がなくなってしまう、これでいいのかなとそんな思いがしますので、是非とも女性議員を増やしていただきたいという思いから、最低でも現状維持です。よろしくお願ひいたします。

○17番（大槻良明君） 大槻です。わたくしのほうは現状維持ということでお願いしたいと思っております。住民の声が議員が減ることによって届かなくなる確率が高く

なると思いますので、現状維持でお願いしたいと思います。

○18番（田村昌男君） わたしは前から申し上げているとおり、現状維持でお願いします。定数を削減しますと、過疎地帯がもっと過疎化してしまいますので、市民の声を反映するには現状維持がいいかと思っております。

○20番（荒川一秀君） 皆さんの意見随分出てきたんですけども、わたしは当初から減、国会も今定数削減の話をしていて、臨時会ではできないということで本会議でなってきたんですけども、そういうふうな時代的な角度から、この前も2年前にやってくれたんですけども、いろいろ調査した中でも情報が入っているわけですので、定数と報酬は同時にセットで考えなければならないと思うんだよね。ですからわたしは前から今の現状では減にしてもいいんじゃないかなと思っておりますけど、それと同時に皆さんから聞いて、最終的には数の多い方で進んでいくんだと思うんだよね。そうするとそのときに、全会一致ということをもとめてもらいたいなとわたしは思っています。

○副議長（谷仲和雄君） 谷仲でございます。今の定数に関して維持とか減というところの前に、わたくしからお話させていただきたいのは、まず議会としての機能、これがどの定数というところで、ぎりぎりの線で機能できるかというところ。一言で言うと常任委員会がメインになるかと思うのですが、常任委員会、特別委員会。そこで、議会の機能としてまずそこをしっかりと追及というか、そこをやったうえで仕事のあれに対して定数はどうだという考え方ではおります。それでこの会議の中で、そのスケジュールの中でそれを議論していくというところが大事なかなと思います。最初から定数について減とか維持とかというところのスタンスでは正直申し上げます。今のところわたくしはございません。

以上です。

○副委員長（鈴木俊一君） 相対的に考えると、まず、全体的に考えて、ほかの市がどうだからとか、ほかの市町村がどうだからというよりも、小美玉市にとって今の現状がふさわしいのか、ふさわしくないのかというのを考えたほうがいいかなと思いました。だから相対的に人口何人だから、何人とフラットに数字上でやるんじゃないくて、小美玉市のこの20人でどうかなと。今までの話を聞いていますと、妥当な数字が出てきていますが、第2回ヨーグルトサミットをやった真庭市などは人口4万人で24名だったりするところもあるんですね。2万人くらいで22名だったり

したり、結構小美玉市より人口が少ないのに、定数が多いところもほんとに数多く何十って。多分、まだ集計してないですけど、全国市議会の資料を見ると、今回茨城県の資料しか出ていないんですけど、ホームページを見ると全国の市町村の定数が出ていて、それを見ると全部はピックアップしていませんけど、結構人口が小美玉市より少なくても定数が多いところもあつたりするので、ただ相対的に言うと、相対的に考えるというと、小美玉市ぐらいのところだと定数 20 では多いというふうになってくると思いますが、フラットで小美玉市にとって 20 がいいのかどうかという考え方でわたしは進めていけたらいいなと考えています。

○委員長（岩本好夫君） では、わたしのほうからも。わたしの個人の意見として、前回の定数と報酬の特別委員会の委員長をやらせてもらったんですが、だいたいがほかの自治体では人口であつたりとか、自治体の面積ですかね。そういったところで積算しているところが多い。そういったところがだいたい定数の決め手となる 8 割ぐらいなのかな。2 割は各々の自治体の特徴があつたりです。確かに人口減少にはなっています、少子高齢化でもあります。ただ、人口が減少したからといって行政の仕事って減っているわけではないんだよね。人口が例えば 1 万人減ったとしても行政としてあるいは議員として、議会として仕事が減るわけではない。これも考えなければいけないと思う。それと定数いくつがいいかの前に、議員とはどういう立場なのかということですよ。公選で選任された議員というのは、各々がみんな住民と約束をして議員になっていると思うんです。その選択を経て議員という立場があるわけなんで、住民の声を反映する立場にいる。わたしら地方議員というのは国会議員や県会議員とは違って市民の生活そのものに直結するんです。大きな施策とかそういうことではなくて住民の隅々の声。声にならない声であつたりとか、訴える住民は一杯いますけど、声に出せない住民も一杯いますよ。そういうところまで含めて議員として理解して、議会としてそれに答えることができるのかということが重要だと思います。ですからわたしは定数がいくつが小美玉市で、今、副委員長からもありましたけども、小美玉市にとって定数っていくつが妥当なのかなというところを、ほんとにこれ皆さんの今聞いたところ 7 割強ぐらいが削減したほうがいいんじゃないかなという意見が多かったと思います。ただ、その中にもいや現状維持がいいよという部分と、あとは小美玉市のほんとの定数をもっと考えたほうがいいんじゃないのという意見があります。今、副委員長からあつたのは、小美玉市

よりも少なくとも、人口が少なくても定数が多いところもあるし、できればそう
いったところちゃんと研修してどういった理由でこの定数になったのかとか、そう
いったことも調査研究する必要があると思うんですよね。今、わたしたち 20 名、こ
の委員会は 19 名ですから 19 名の意見で決められることでもないのかなとも思うん
です。ですから定数って削減したら今度増やせないからもっと慎重に、しっかりと
みんなで調査研究をして、小美玉市議会のしかるべき定数をみんなと一緒に考えて
いきたいとわたしは思います。

○20番（荒川一秀君） 今、皆さんの意見を聞いたんだから、自分の意見も言っ
たけど、こうやって見ると、減の方向で今あるんだから方向性を自分なりに委員長
として進めてやっていかなければならないのかなと思います。

○委員長（岩本好夫君） 委員会をやるのに方向性、減で考えていきましょうか、
現状維持で、増やすというのは無理だと思うんだよね。考えていましょうかじゃ
なくて、これから定数を考えていく特別委員会なんだから、どの定数がいいかを考
えることであって、それが今、個人個人の意見伺いましたよ。これはみんな議員と
して持っている個人の意見なので尊重しますよ。お互いに尊重するという事です。

ただ、どの方向でというのは、今から調査研究するわけですから。その中で、も
しかするとやっぱり減のほうがいいのかなとなる人もいると思うし、現状維持がい
いんじゃないのという人がいるかもしれない。今ある自分の個人の意見を今述べて
いただいたんで、それを事務局と一緒にまとめますので、そこからじゃどういふ
うに定数に対してどういう調査研究をしていましょうかというのがこれからの議
題になると思うんです。だからどの方向性ってそれこそここで決められることでは
ないと思うんです、1回目の委員会でね。時間はないって言うけど時間はまだまだ
ありますよ。

○20番（荒川一秀君） 時間は、あるかもしれないけど、みんなの意見の方向に
進めていくべきでしょうって。

○委員長（岩本好夫君） 意見の方向。

○副委員長（鈴木俊一君） 荒川さんが言っているのは、全体の7割が減の方向に
いるから、その方向で進めていっちゃいましょうという。

○20番（荒川一秀君） そのほうが、そうするべきだと思うんです。今までも2
年前にやったんだから、わたしのときは10年前だから。10年前からやっていくこと

が今回はじめてだったならば、これは今から調査研究だなんだって、もう2年前に1回調査研究やっているんでしょう。

○委員長（岩本好夫君） 委員長として言わせてもらいたいのは、だったら最初から特別委員会なんてつくらなくて多数決で決めればいいことであって、ただ特別委員会をつくってこれから調査研究していきましょうということなんだから、そこが重要なことであって、改選は今から2年後ですよ。2年間、あるいは半年でどれ程情勢がどれくらい変わるかもわからないし、同様に皆さんの意見も変わるかもしれない。そこは慎重にやっていきたいとわたしは考えるので、今7割が減のほうだから、じゃという話になるとね特別委員会をわざわざ開催して、しかも議員全員、議長抜かしてなんですけど19名が入っている特別委員会ですよ、これ意味がないよね。

○20番（荒川一秀君） 個人の意見を今、聞いたんだから、個人の意見を集約して、その方向で進めるべきだと。定数を減にしたって人数にしたときに、今度ばらばらになっちゃうでしょ。そうだと方向性がぐらぐらしていっちゃうんじゃないのかなと思うんだよな。

○16番（福島ヤヨヒ君） 福島です。はじめから定数ありきでは、先ほど申し上げました女性の意見は一体どこにいつっちゃうんでしょうか。少数意見はどこにいつっちゃうんでしょうか。少数意見がなかったら、ほんとにみんなまとまってだあっといってね女の人置き去りになっちゃいますよ。女性の目線をもっともっと生かして欲しいということをわたしはどうしても訴えたいんです。ということで、みんなで他の市町村がどんな現状で、ほんとに減らしてよかったと言っているところが一杯あるのかも聞いてみたいなという気はするので、今回今日がはじめてです。すぐ方向性じゃなくて、もうちょっと少数意見に耳を傾けてほしい。男の人ばかりの議会がいいのかということわたしは一旦大きな声で言いたいんです。女性が当選できるような、言いたいんですけどもすみません。

○8番（長津智之君） さきほど委員長が言ったように、わたしは今の方向性の考えを聞かれたから言ったと思うんですよ、皆さんも。今日1発目で今日の意見を皆さん踏まえて何回も今のこういう議論をやっていって最後にはいずれ時期が来たときには、多数決なり全員のあれなんでもっていくための、でも今日のはじめて全員が自分の気持ちを言って、それは数が7割以上というけど、まだまだわからないと思うんですよ。今の女性の方の意見とか、そういうのも今から出てくると思うんで

すね。それで減らしたところ今の現状の調査もあると思うんですよこの委員会で。そういうことを踏まえて、あんまり今日やって今日決めるというのはどうかなとわたしは思います。

○副議長（谷仲和雄君） まずは、この定数とか報酬の協議の内容が、どういうふうに調査を進めていくか、調査方法をまずは皆さんで集約していく場かなと思います。その調査方法をどうしていくのかわかればそれに沿う形で調査研究して、最後には今日の皆さんのご意見の集約がはかれるのかと思いますが、調査方法をそのところ協議内容、そのところは今日決めないとこの回数が増えてしまうので、しっかり決めたほうが良いと思います。

以上です。

○7番（香取憲一君） 一案なんですけども、当初委員長の方と事務局からお示ししていただいたスケジュールが、次が2回目3月だと思うんですけど、3ヶ月ありますので、この委員会全体でいろいろ調査云々、共同でやる面もあると思うんですが、3ヶ月の間にそれぞれ皆さん各議員の活動の中で、他市町村の声が現状だとか、そういうことも絶対いろんなことを調べるなり、耳に入ってくるのもあると思います。2回目のときにまたそういう意見も出しあって協議をして、そのためにさっき言ったように発表じゃないですけど、今の気持ちはどうでしょうかとか1つ1つ確認しながらやっていくというのがみんなで共有して進めていけることなんじゃないかと感じております。

以上です。

○委員長（岩本好夫君） 大変有難い点だと思います。わたしもそれを伝えたくて、議員が全員出席している委員会なんだから、議員一人一人の意見を尊重しながら、理解できる部分は理解して、理解できない部分は討議すればいいわけ。だから委員長に気になったときにはお願いしますと言えば、その意見に対してわたしはこう思うということを討議の場をいくらでも設けますし、定数とか報酬むしろ時間かかるべきだと思うんですよ。今、有難いことに香取委員から言われたのは3ヶ月の中で、次回の委員会までに各々が調査研究をして、また、それでまた発表の場を出してください、与えてください、こういうことが調査研究の一番大事なところであって、各々が調査研究をして各々の意見をまた述べてもらって、それでしかるべき小美玉市議会の定数をできれば全会一致で決めたいと思っております。

では、今言ったような形で、今日皆さんからいただいた定数に関する意見を事務局のほうで取りまとめて、それと正副委員長で調整しますので、3月の定例のときにも特別委員会の時間を設けさせてもらいますので、そのときにまた改めて皆さんにお示しできればと思います。今、現時点では定数のことに関してなんで、あとは皆さんでこういった調査研究してくださいというご希望があれば、それは事務局と正副委員長のほうで考えますので、こういった調査研究をお願いしますという意見があれば、今先ほど香取委員からご意見いただいたので、それはほかの議員さんも皆さん3ヶ月間自分なりに調査研究していただいて、それでまた次回の委員会でもし何か発言することがあれば言っていただければ受け賜われます。

では、調査研究について、こういった調査研究をしてもらいたいというご要望があればお伺いします。

○16番（福島ヤヨヒ君） 先ほど長島委員がおっしゃったように、わたしも前にお弁当のと言いましたけれども、そういう件もひっくるめてお弁当が出る議会というのは今、県内でも小美玉市だけみたいな話も聞いておりますので、その点費用弁償もあるところないところありますので、ここらへんのところもこういうときでないと調査ができないのかなという気もしますので、できればこの点についても一緒にとはいかないかもしれませんが、できれば調査していただきたいなと思います。

○委員長（岩本好夫君） それは当初事務局とも話してありますので、この特別委員会は長島議長のときに設置した委員会なので、長島議長の当時の議長のほうからもその旨ありますので、次回事務局のほうと費用弁償について近隣の調査をしてもらったのを皆さまにお示しして、皆さま方の協議の中に入れていきたいと思っております。

[「はい」の声あり]

○20番（荒川一秀君） 今の件だけど、これも大事なことからきちんとこの委員会でセットで決めていったほうがいいと思います。

○委員長（岩本好夫君） やると言ったよね。議員に対しての報酬というのは、よく言われるのが議会何か月に1回で何日出ているんだとよく言われるんだけど、議員のそもそもの報酬というのは議員に当選したときからの議員に対する、身分に対する報酬なの。ほかの議会の中では議会に出る度費用弁償が出るところがあったり、

これが議員として認められた権限なんです。議会に何日出たからいくらではなくて、議員という身分に対しての報酬をもらっているわけだから、そのほか委員会でも、議会でも出れば費用弁償が出るのが議員が法で認めらえた権限なんです。そのへんも含めて事務局で調べていただいて、次回の特別委員会的时候には近隣ではこうなっていますぐらいの費用弁償に関してはね。資料なくて皆さんのご意見もまた受け承りたいと思います。

よろしいですかね。

[「はい」の声あり]

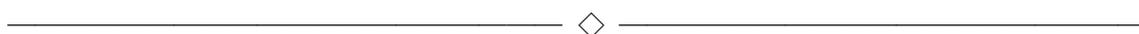
○委員長（岩本好夫君） わかりました。

では、定数に関してはこういったことで。皆さんの今の意見をとりまとめたものを正副で考えるのと、協議をしてそれで次回のあとは皆さんのほうからもできればこういった調査研究をしていただきたいという意見があれば、そういったところも皆さんも今日のはじめてだと思うんです。議員の個人個人の定数に対する意見を聞いたのはね。だからそれも踏まえてこういう調査をしてほしいとか、こういう調査研究をお願いしますというのをもし、次回の委員会で意見として伺えればと思います。

よろしいですか。

[「はい」の声あり]

○委員長（岩本好夫君） では、よろしくをお願いします。定数の進め方はこのようにしたいと思います。



3. 報酬の調査方法について

○委員長（岩本好夫君） 次に、報酬の調査方法についてなんですが、こちらも皆さんのお手元に資料があると思います。それも目を通していただいている前提でお話します。

報酬に関して、皆さん個人個人の意見を先ほどと同様、期数の若い順から順にいただきたいと思います。

○1番（鬼田岳哉君） では、わたくしから、報酬は上げたらいんじゃないかなと。わたくし自身のサラリーマンやっていて、サラリーマンから飛び込んだ中で、苦しいなというのがあります。

以上です。

○2番（宮内勇二君） わたくしも現在の議員報酬だと、若い世代とか現役世代がなかなか選挙にチャレンジできないような現状があるのかなと感じますので、しっかりその責任に見合った報酬を考えることによって議員機能の強化というか、そういった闘志にも繋がるのかと考えております。

以上です。

○3番（戸田大我君） わたくしは、事業で自分の仕事やっているということから、個人的には上げなくていいのかなと、どちらでもいいかなと思っておるんですが、ただ、確かに専業でやる方にとっては現役世代とっても厳しい額だなと感じております。いろいろ今回のこの委員会で、研究調査考えたいというふうに思っております。

よろしく申し上げます。

○4番（内田和彦君） わたしとしても報酬の方は上げたほうがいいのかと思います。今、本当に議員だけでやっているとすると厳しい現状もありますし、これからの世代、これから出る若い人とかそういう人に対しての報酬を上げるとか、ある程度のところまでもっていったほうが人材を集めたりとか、いろんな幅広い方が働ける場所でいられるかなということなので、上げたほうがいいのかと思います。

○5番（山崎晴生君） わたしも上げたほうがいいのかというような意見で、平成28年のほうに議員の報酬のほうで改訂になって10年というところで、世の中もだいぶ物価高騰もしていますし、議員である以上いろいろなことに経費もかかってくるところでありますし、政務活動費も年間18万円ですが、果たしてこれで足りるのかなというところもしっかりと議員としての質を上げるという部分でも、報酬のほうで改訂をしてしっかりと一人一人が働く、議員としての職責を全うできるような報酬に上げるべきではないかと思っております。

以上です。

○6番（真家 功君） 結論的には議員報酬は上げるべきだと思います。これは副業を考えないで、議員の仕事だけである程度生活できるぐらいの給料が必要ではないかと思っております。

ただ、議員報酬を上げるだけではなく、上げるイコール定数は削減するべきだなと。上げるときには、定数を削減しなくてはならないかなと考えております。セットで考えたほうがいいのかと思います。

以上です。

○7番（香取憲一君） わたくしのほうは、今、真家議員もおっしゃいましたが、定数減がなされれば、上げるべきだと思います。

○8番（長津智之君） わたしもセットで考えるべきだと、当然だと思っています。

ただ、個人的には誰も今の額よりちょっとでも上げてもらえれば、下世話な話ですけど、ちょっとでも多い報酬にしてもらいたいなという気持ちがあるのは事実です。ただそれには先ほどの定数減をきちんと議論して決めて、それに報酬がついてくるのかなと思っています。

以上でございます。

○9番（島田清一郎君） わたしは議員定数と給料ベースアップというのは、別な考え方でいいんじゃないかと思っています。それは、5年も10年も基本給が上がらない、世の中ではちゃんと毎年ベースアップしているので、5年に1回くらいは社会状況に見合わせた給料を、審議会のほうに要望してもいいんじゃないかと思っています。

以上です。

○11番（村田春樹君） わたしは報酬アップはもちろんするべきだと思うんですけども、定数と報酬というのは一緒にしてはいけないと前から言っているんですけども、実際に定数を下げなくても、わたしたちの議員の任期は4年ありますけども、市長選、県議選、市議選、トリプル選挙にした場合に、削減できる人件費とかいろんな費用というのがあるので、それってすぐ執行部のほうに聞けばどのくらいの金額かとわかると思うんですけども、そういったものをしっかり見て、自分たちの身を切る覚悟というのだったら、1年ぐらいの任期を身を切って報酬を上げるとか、そういった改革が必要なんじゃないかと。定数を下げることによって報酬を上げる、これはいろんな市議会、いろんな全国の市町村議会でやっていますけど、そういったことではなく、自分たちでそういったことを考えて1歩、2歩先に進むような形の議会にしていくべきなんじゃないかというふうに思っております。

以上です。

○14番（長島幸男君） 報酬に関しては、今よりも少しでも上げたほうがいいのかと思います。先ほど皆さんのほうからもお話がありましたように、物価高騰、一般の社会人の月収、年収、これもここにきて最近だいぶ上がってきています。そ

ういう意味からも報酬は議員報酬ということで、上げていただきたいなと思っています。

○16番（福島ヤヨヒ君） わたくしの持論はもともと職業という言い方はおかしいかもしれませんが、議員という仕事を一生懸命して、家族が養えるだけの報酬があったほうが良いと思っています。そもそもが、国がきちんとそういう制度をつくっていなかったせいで、各自治体が報酬を悩まなくてはいけません。同じ24時間働いて人口が違うから値段が違う、何が違うから違うという、このことがどこかで誰かが直してくれないかなというのが一番のわたしのもとの考え方ですけども、しっかりと議員というところに軸足を置いて、働けるだけの報酬はいただけたらいいかなとわたくしの考え方です。

以上です。

○17番（大槻良明君） わたくしのほうも報酬のほうは、上げていただきたいと思います。若い人がこの給料では子どもが大きくなったときに生活できないと思いますので、子どもを育てることができるような、せめてそのくらいの給料はもらいたいと思いますので、上げていただきたいと思います。

○18番（田村昌男君） わたくしは詳しくは申し上げませんが、現状維持でいいと思います。

○20番（荒川一秀君） 10年前に二人減らして5万円上がったんだよね、わたしが委員長やったときにね。あれから10年。今、大学卒業でも初任給30万円の時代になってきたしね、もう若い人のためにも是非上げてもらいたいと思っています。

報酬審議会を上げてもらう要望を議長から出すわけだと思っただよ決まればよ。そうすると、報酬審議会の委員さんの角度によっても違うんで、そのへんもある程度議会で注文つけるわけにはいかないけど、ある程度考えてやらないと報酬審議会の人材がまたたきになっちゃうんだよね。そのへんのところ皆さんで、今までの経験でね。

○副議長（谷仲和雄君） 報酬についての考え方というところで、まだ、議員活動として適正な報酬というのがどれくらいかというところ。これは、あくまでも報酬等審議会のほうに、開催を要望するというところまでかなと思います。

以上です。

○副委員長（鈴木俊一君） わたしも同じく上げる、自分で自分の給料って農家の

人はつけられないと聞いたことがあるんですけど、報酬等審議会に打診するのが、要望するのがいいかなと思っています。

○委員長（岩本好夫君） 要望というのは。

○副委員長（鈴木俊一君） 報酬審議会を立ち上げてもらってそこで話し合ってもらおうということです。

○委員長（岩本好夫君） わたし個人の意見としては確かに、この報酬ではちゃんとした生活というか、例えば議員として副業でやっている方、ほかに職業持っている方はなんとかやっていけると思うんだけど、議員で生活していこうという人はなれないね。各層からの議員というのが大事だと思うので先ほど言ったように、福島議員が言ったように女性の議員であったりとか、あとはサラリーマンであったりとか、農家の方であったりとか、個人経営の方であったりとか、その立場でなければわからない要望ってあると思うんだよね。だから、生活には困らないよという方、議会だけでも大丈夫だよという方と、そうではない方もいるわけなんだよね。そういう方も議員として出て、その各層の想いであったりとか考えを議会、あるいは行政に反映できればさらに小美玉は開かれた議会になると思うんだよね。そのためにはどうしても報酬はこの報酬ではなかなか難しいと思います。なかなかわたしらで上げてくれと言っても審議会のほうで否決されればダメだし、ただ、先ほどの島田議員が言ったように、どこでもだいたい自治体に合わせて物価に合わせてだいたいベースアップになっていると思うんだけど、なんでわたしらは住民の顔色伺ったりとかしなければならぬのかと思うのだけど、そのへんも堂々と、定数下げるから報酬上げてくれではなくて、確かに報酬として市議会議員としてこれだけの報酬はいただきたいという胸を張って言えるような議員であるべきだと思うし、このへんのところも今、皆さんは自分以外の意見を皆さんの意見を聞いたので、それをもとにまた、先ほどの香取委員ではないけど3月の議会までに、それなりに調査してもらって、また、意見もらえれば。そのときにまた、こういう調査研究をしてもらいたいということがあったときには言っていればそれを今後の委員会運営していく上での参考にさせていただきたいと思いますので、そのへんのところ。今、皆さんの意見を聞きましたが、ここまで皆さんほかに何かあればお伺いします。

○14番（長島幸男君） 今、いろいろお話の中で報酬審議会に打診ということなんですが、わたし数か月前にいろんなニュースで見たんで、報酬審議会に議会代表

で例えば議長とか、そういう形で実際の議員活動はこういうふうにしているという
ようなことで、報酬審議会に委員として1名、いろんな報酬審議会と言っても議員
はどのような仕事をしているのかそういうのがわからないと思うんですよね。だから
議会代表として委員として1名は参加して、これは市長のほうにも要望というか、
してもらいたいなと思います。

○委員長（岩本好夫君） 長島委員の言うことはごもっともだと思うんだよね。審
議会の中に当事者がいればこういう活動をしているんだということが言えれば。

○20番（荒川一秀君） 全くそのとおりで、わたしも合併前のときに報酬審議会
開いてもらったんですよ。そしたら、メンバーによって上げないでいいとなっちゃ
って、そのままになっちゃった経緯があったんだよね。今、言ったように学識経験
者でつくると思うんだけど、そうではなく中身も議会の要望として出さないと、反
映されないと思うんだよね。

○委員長（岩本好夫君） 確かに議会議員の報酬決めるところに、議会議員の活動
を理解していない人がいても困るね。ある程度理解してもらっての上での審議会
であれば議会としての思いが反映されると思うんだけど、全くゼロの人だったら上げ
る必要ないと、その時は石井議長に頑張ってもらって、こういう要望も特別委員会
として要望することもできると。

○8番（長津智之君） 全くわたしもいいと思うんですけども、過日の視察の中で、
ちょうど議会の報酬の声をあげる場面の議会側は動議していたんですね。結論が出
てきた、そこで今度は市長に対する議会側から報酬審議会をかけようとしたとき、
今、委員長が言ったように、審議員の皆さんは市長がお願いするんでしょうけど、
誰も議会の活動している内容がわからない。はじめて加西市は当時の今やっている
現職議長を説明員で審議委員は間に合わなかったんで、説明員で議長を送ったとい
う実例を聞いてきたんで、そういう例もありますので、よろしくお願いします。

○委員長（岩本好夫君） 大変参考になりました。概ね皆さんの意見を聞くと、報
酬は上げるべきでないかという部分。これも上げるにしても現状維持にしても、い
くらが小美玉市議会の議員としての報酬が適切なのかという部分は、これは調査研
究しないとわからないと思うし、市議会に出すからには報酬はこれが適切だとある
と思うという意見を付けなくてはならないと思うので、報酬額を裏付けるちゃんと
したものがないと、物価がどうだから上げてほしいということでは済まないから、

そういったことも含めて調査研究をしていきたいと思えます。よろしいですかね。

審議会に関しては、長津委員からも大変貴重な意見いただきましたので参考にさせてもらって、今日のところは皆さんの意見を一人一人聞いて、それを取りまとめでというところで考えていました。

次回3月の定例のときに、皆さんが全員参加なので、一番出やすい日程で調整しますので、それまでに皆さん定数と報酬に対して、皆さんそれぞれに調査研究していただいて、こういう調査が必要でしょうか、こういう研究が必要でしょうかということ、それに含めて費用弁償に対しても資料を今度出しますので、それも含めて皆さんと協議したいと思えます。

ここまでで何かご意見あればお伺いいたします。

○6番（真家 功君） 今日の協議の内容として、全体的な意見として今日出た県内の情報の資料が、とてもいい資料だと思っております。県内の情報で定数なんかは人口と比較できたり、ただ、報酬は人口とは全然比較できないなということもわかりました。そういう意味では報酬はもっとしっかり調査しなければいけないかなと感じました。

以上です。

○委員長（岩本好夫君） 事務局が一生懸命資料をつくってくれました。

では、特になければ、今日は第1回目ということで、閉会としたいと思います。

よろしいですかね。

[「はい」の声あり]

◇

◎閉会の宣告

○副委員長（鈴木俊一君） それでは、以上をもちまして、議員定数報酬等調査特別委員会を閉会いたします。

次回は費用弁償についても協議したいと思います。

お疲れさまでした。

午後 2時04分 閉会